



**FUTURE of
PACKAGING**
PTIS, LLC



PTIS Future of Packaging™ Packaging Thought Leader Survey - 2035

Insights from global thought leaders on the world of packaging in 2035

「パッケージの未来 2035」 包装専門家への質問 アンケート結果

2026 年 8月 26日
日本包装専士会 未来包装研究委員会



目次

1. アンケート調査概要、謝辞、
分析上の注記、免責事項、お断り
2. Executive Summary
『2035年 包装の未来に向けた影響とトレンド』
3. 主要ドライバー
4. 2035年への提言
5. Q1～Q22アンケート結果
6. 今後について

日本語版アンケート実施について

概要

- 「**PTIS Future of Packaging™**」は、米国の包装コンサルタント企業 **PTIS, LLC**(共同代表者4名)が、「包装の未来に向けた影響とトレンド」を調査するため、1997年から始めたものです。
- PTISは2025年2月、各国の**パッケージ専門家(Packaging Thought Leader)**約200名を対象に、「**Future of Packaging™ 2035 Thought Leader Survey**」(**パッケージの未来2035**)を実施しました。
- アンケートは、今後10年間のパッケージに影響を与える要因を探求、分析、定義づけるものなど、主要質問18問と属性質問4問(多くは選択式)から、**パッケージ専門家**が包装に影響を与えるテクノロジーやトレンド(デジタル、AI、環境、消費者、規制など)について意見を広く集め、洞察するものです。
- 包装の専門性だけでなく、経済や社会など幅広い意見が求められます。
- 多くのパッケージ専門家にとって、未来を洞察することは学びの多い機会になると考え、今般、日本包装専士会がPTISの承諾を得て、初めて、日本語版アンケートの実施を行ったものです。

謝辞

- 実施には、**日本包装コンサルタント協会、技術士包装物流会、日本包装管理士会**に協賛いただき、各会会員にご案内いただきました。深くお礼申し上げます。
- 日本語版アンケートは、2026年3月16日から4月末まで「Microsoft Forms」を使って匿名で行われ、**合計107名**の方々よりご回答いただきました。ご回答いただいた各会会員の会員の皆様、ならびにご所属企業の包装専門家の皆様のご協力に深くお礼申し上げます。
- 日本語版の翻訳作業では、PTISが示す意味を洞察し、適切で簡易な言葉を探すなど、有志の方々の多大なご協力を賜りました。深くお礼申し上げます。

分析上の注記

- 本資料の選択式設問は回答数・回答率に基づいて集計しました。
- 自由記述は、回答内容を尊重したうえで、意味の近い記述をテーマ別に分類しました。
- テーマ分類は重複を許容し、一部の整理・集約にMicrosoft Copilotを補助的に使用しました。
- 考察・提言は、アンケート結果を基に日本包装専士会 未来包装研究委員会が行ったものであり、回答者個人またはPTISの公式見解を示すものではありません。

免責事項

- 本資料は情報収集した事実に基づき作成する努力をしておりますが、正確性・完全性を保証するものではありません。
- 本資料では日本包装専士会 未来包装研究委員会の意見・考えも掲載しております。これらは将来を保証するものではないこと、あらかじめご了承ください。

お断り

- 本資料の無断転載・複製は堅くお断り申し上げます。

Executive Summary: 2035年 包装の未来に向けた影響とトレンド

提言：葛藤を超えて、包装の社会的役割を再設計する。

課題

- 気候変動
(CO₂排出量の削減)
- 資源枯渇と資源安全保障
(循環型への移行)
- AI・自動化
- 労働力不足

懸念(課題解決障害)

- 循環型移行の停滞
- コスト
- 回収・再資源化などの
リサイクル・インフラ不足
- デジタルスキル不足と
労働者代替

リスク(前提崩壊不安)

- 戦争・紛争
- 地政学・分断
- パンデミック・大災害
- サプライチェーンの混乱
- AI暴走・サイバー攻撃
- 法規制・政策・標準の急変

成長ドライバー

- ケミカルリサイクル
- AI・自動化
- ブランドオーナーや政府、
国際条約の牽引力
- 消費者・社会の変容
(価値観変化)

● 本調査の示唆

- ✓ 日本の包装専門家が「**循環型移行**」を支持しつつも、その実現には、安定供給・コスト・労働力不足・消費者理解・ブランドオーナーの意思決定など、相反する複数の**葛藤(内なる葛藤)**がある。
- ✓ 加えて、戦争・紛争やパンデミック・大震災など**予期せぬ制御不能な要因**により、「**使命である安定供給が揺らぐ**」という包装業界の前提が崩壊するリスクへの**葛藤(外からの葛藤)**を挙げている。
- ✓ 本調査は、日本の包装業界は「**何に悩み、何を守ろうとしているのか**」という**実感を表す結果**になった。

● 解決への示唆

- ✓ 循環型へは「ケミカルリサイクル」や「回収インフラ」、「新素材・バリア機能・バイオ技術」への期待。
- ✓ リスク克服へは「サプライチェーン強靱化」や「素材革新・脱石油・バイオへの移行」の必要性を指摘。

● 提言(日本包装専士会 未来包装研究委員会)

- ✓ 日本の包装専門家は「**安定供給**」と「**環境対応・循環型**」を**両立**する産業へ変わるべきだという点で一定のコンセンサスがある。一方、その先の“**創るべき未来**”については、**包装産業の前提が崩れるリスクや不安**が先立つ。2035年に向け、「**包装が何を実現する産業になるのか**」、積極的に議論すべき余地がある。

Highlight: 2035年の主要ドライバー

主要ドライバー

インサイト(洞察)

ケミカルリサイクル(CR)への期待と責任

複合材のリサイクルや、食品接触用途への再生材確保が期待される。資源安全保障の観点からも、リサイクルの重要性は高い。

AIへの期待と不安

AI・ロボット活用への期待が高い一方、AIスキル不足や雇用・役割への影響も懸念。

移行におけるブランドオーナーへの期待

2035年、リサイクル・資源循環の社会実装が遅れることを懸念。政府や国際協定以上に「ブランドオーナー」の意思決定とリーダーシップに期待。

2035年に向けた準備を始めている組織は57%

57%も始まっている一方、43%は準備未着手と回答。循環とコスト、環境と機能など、相反する葛藤もある。

リユース・リフィルについてはまだら模様

洗浄・耐久性・回収インフラなどの課題がある一方、使い捨てより経済合理性が高まれば普及する意見もある。

世界的な紛争やコスト高(予期せぬ制御不可能な要因)

包装産業の使命である「安定供給の確保」という前提崩壊の不安。ナフサ確保、コスト高抑制など、現時点の課題対応に多くのリソースを割かざるを得ない業界の葛藤がある。

影響要因 Top 5

- 1 AI(生成型、エージェント型、複合型など)/機械学習 (48)
- 2 循環型経済モデルとそれに向けた取り組み (40)
- 3 労働力不足 (30)
- 4 ケミカルリサイクル/アドバンストリサイクル(高度リサイクル)(Advanced/chemical recycling) (29)
- 5 法律/規制の影響 (25)

主要リスク Top 5

- 1 世界的な紛争 (44)
- 2 パッケージ(プラスチックを含む)の循環性の実現 (38)
- 3 材料のコスト/パッケージのコスト (35)
- 4 回収・再資源化インフラ(リサイクル) (24)
- 5 サプライチェーンの混乱 (21)

科学技術 Top 5

- 1 ケミカルリサイクル/アドバンストリサイクル(高度リサイクル)(Advanced/chemical recycling) (50)
- 2 AI(生成型、エージェント型、複合型など) (39)
- 3 使用済み製品の選別を最適・最大化するための戦略や方法論 (34)
- 4 新素材のための材料科学/ナノテクノロジー (24)
- 5 バリア性/保存期間の改善 (23)

循環型経済に向けた重要事項 Top 5

- 1 ケミカルリサイクル/アドバンストリサイクルの普及(プラスチックパッケージをモノマーに戻す) (53)
- 2 消費者教育 (39)
- 3 新興市場における廃棄物管理/回収の整備 (30)
- 4 リサイクル/リサイクル可能な包装に関する政府の義務 (29)
- 5 マテリアルリサイクル施設(MRF)における回収のための新技術/高度な選別 (22)

Highlight: 2035年への提言

「葛藤を次の価値に変える」

Q3「ワイルドカード」で見た『**それどころでなくなる未来(前提条件が崩れる未来)**』(外からの葛藤)と、
Q17『**目指したい未来**』(内なる葛藤)から導かれた考察

相反する課題には、包装が持つ「社会インフラとしての役割*」の再設計で臨む

～包装業界は、社会に必要なものを途切れさせず届けながら、環境対応も実現しなければならない業界～

「どの包装が社会に必要で、どの包装は削減できるのか」

「必要な包装は進化させる 不要な包装は減らす」

その判断を支えるために、サプライチェーンを可視化するデジタル技術やトレーサビリティが重要になる。
それによって、包装が社会をつなぐ役割そのものを変えていく。

未来包装研究委員会 提言

《改めて調査が必要》

「2035年の包装は社会の中で何を実現するのか」…包装の役割の再定義

《以前》

高品質×低価格×短納期
包装機能の深化
競争・技術・独自性・顧客第一

《現在》

「機能と環境、循環とコストの葛藤」
「AIと仕事消失・期待と不安」
「予期せぬ制御不能な事態への葛藤」

《未来》

「環境課題」「不測の事態」を解決
守る未来:包装機能、安定供給の深化
創る未来:新たな成長エンジンの探索

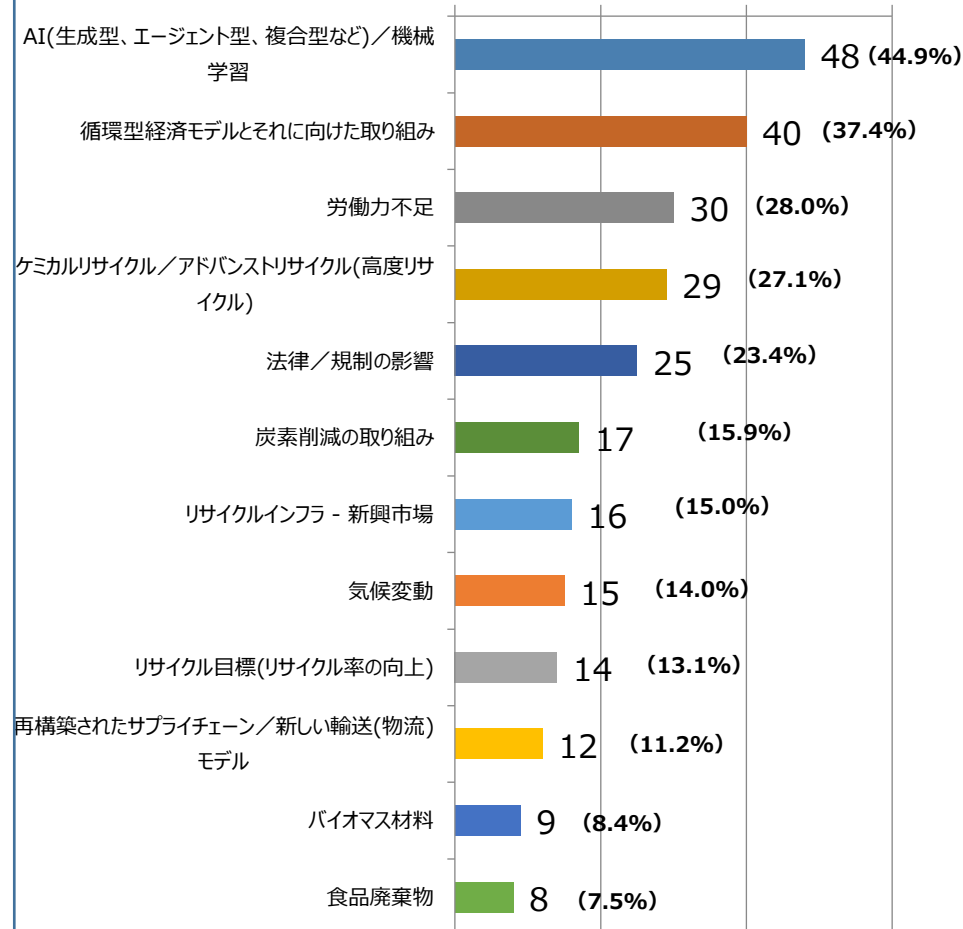
時代は変化・進化・多様化、「守るべき未来」から「創るべき未来」へ

*「包装が持つ社会インフラとしての役割」: 包装は、食品・医薬品・日用品・工業製品を、安全に、衛生的に、必要な場所へ届けるための見えないインフラであり、現代生活に必要な不可欠な役割を持つ。

Q1: 今後10年間でパッケージ業界に最も大きな影響を与える要因『トップ3』は何でしょうか。

回答数

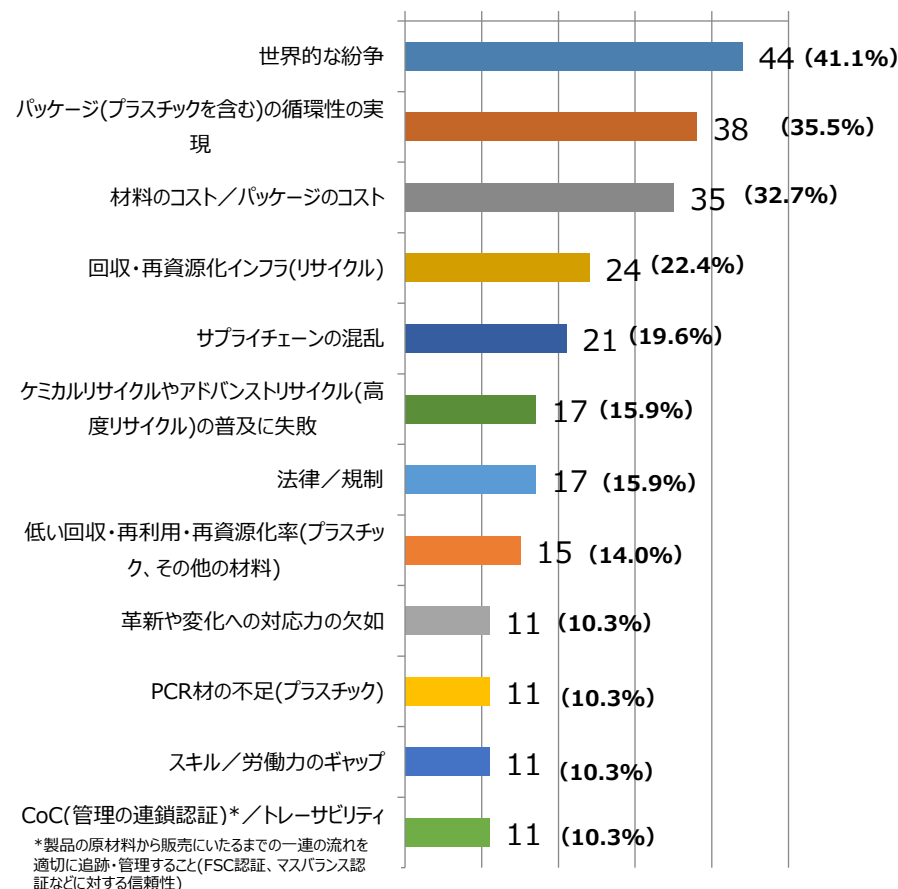
0 20 40 60



Q2: 2035年におけるパッケージ分野の主要なリスク(懸念事項)『トップ3』は何でしょうか。社会的、経済的、政治的背景を持ち、パッケージ業界の内外に影響を及ぼすものです。

回答数

0 10 20 30 40 50



*製品の原材料から販売にいたるまでの一連の流れを適切に追跡・管理すること(FSC認証、マスマネジメントなどに対する信頼性)

Q3:業界に確実に影響を与えるとは限らないが、発生すれば強い影響を及ぼす可能性のある要因や変化は何でしょうか。これらは『ワイルドカード(*)』で不確定要素であり、予測しにくいものの、業界の構図を大きく変える可能性があります。その影響はプラスにもマイナスにもなり得るものです。

過去の例：BPA、タイレノール偽造事件、中国の「国門利剣(ナショナルソード)」政策(欧米の廃プラスチック輸入停止)、革新的ながん治療法、COVID-19など *ワイルドカード：予測できない変数や状況が登場し、それが局面を変えたり、予測を覆す要因となる場合、その要素のこと。

《自由記述》

「地政学、資源、調達、物流、コスト」=「供給不安」がワイルドカードになると回答

11の回答者(12%)が、この質問に「戦争」と回答しました。



※Microsoft Forms 応答結果から複写

テーマ別分類・数値化

順位	テーマ	回答数	比率
1	地政学・紛争・戦争	48	53.9%
2	原材料・資源調達・石油／ナフサ制約	28	31.5%
3	サプライチェーン・物流混乱	20	22.5%
4	AI・デジタル・サイバー・技術急変	14	15.7%
5	法規制・政策・標準の急変	13	14.6%
6	気候変動・自然災害・水／食料リスク	12	13.5%
7	コスト高騰・価格変動	10	11.2%
8	リサイクル・循環システムのブレークスルー／失敗	7	7.9%
9	パンデミック・公衆衛生	6	6.7%
10	消費者・社会意識／価値観変化	5	5.6%

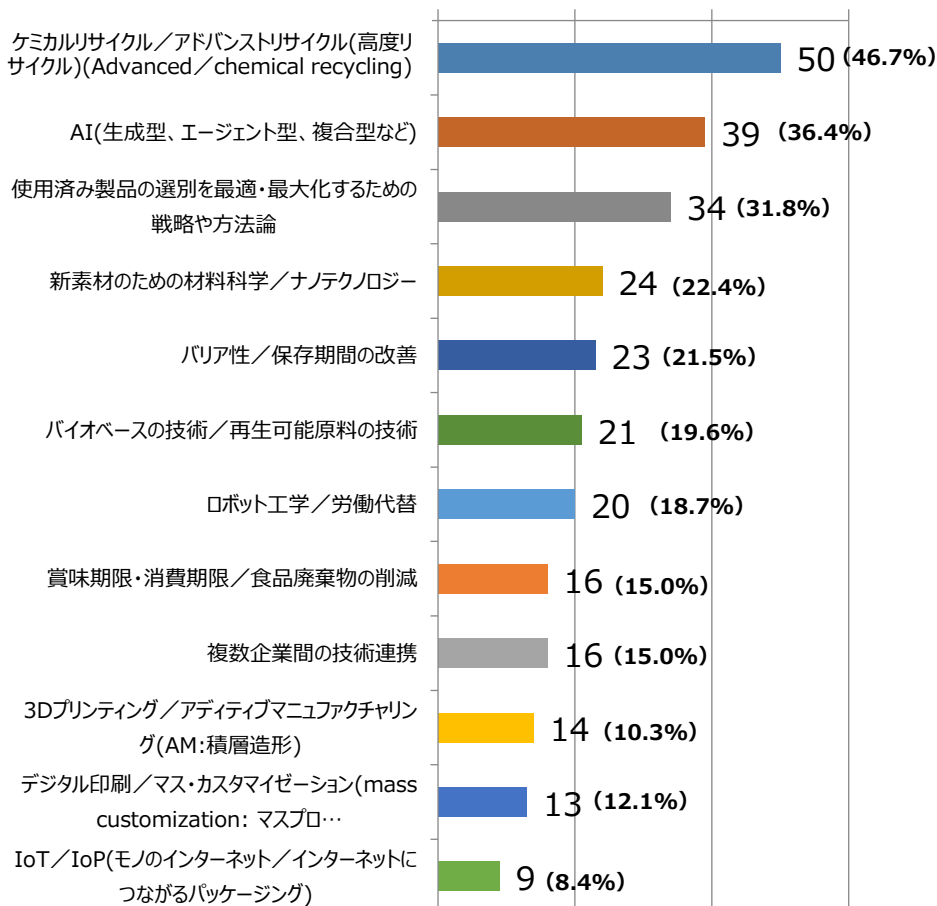
頻出キーワード順位

順位	キーワード	回答数	回答率
1	紛争	21	23.6%
2	戦争	11	12.4%
3	資源	8	9.0%
4	石油	8	9.0%
5	不足	7	7.9%
5	中東	7	7.9%
7	規制	6	6.7%
8	パンデミック	5	5.6%
9	AI	4	4.5%
9	コスト	4	4.5%
9	サプライチェーン	4	4.5%
9	中国	4	4.5%
9	原料	4	4.5%
9	原油	4	4.5%
9	材料	4	4.5%

Q4: 科学技術の発展はパッケージにとって極めて重要です。今後10年を見据え、2035年までにパッケージ分野に最も大きな影響を与えると考えられる科学技術の進歩『トップ3』を選んでください。

回答数

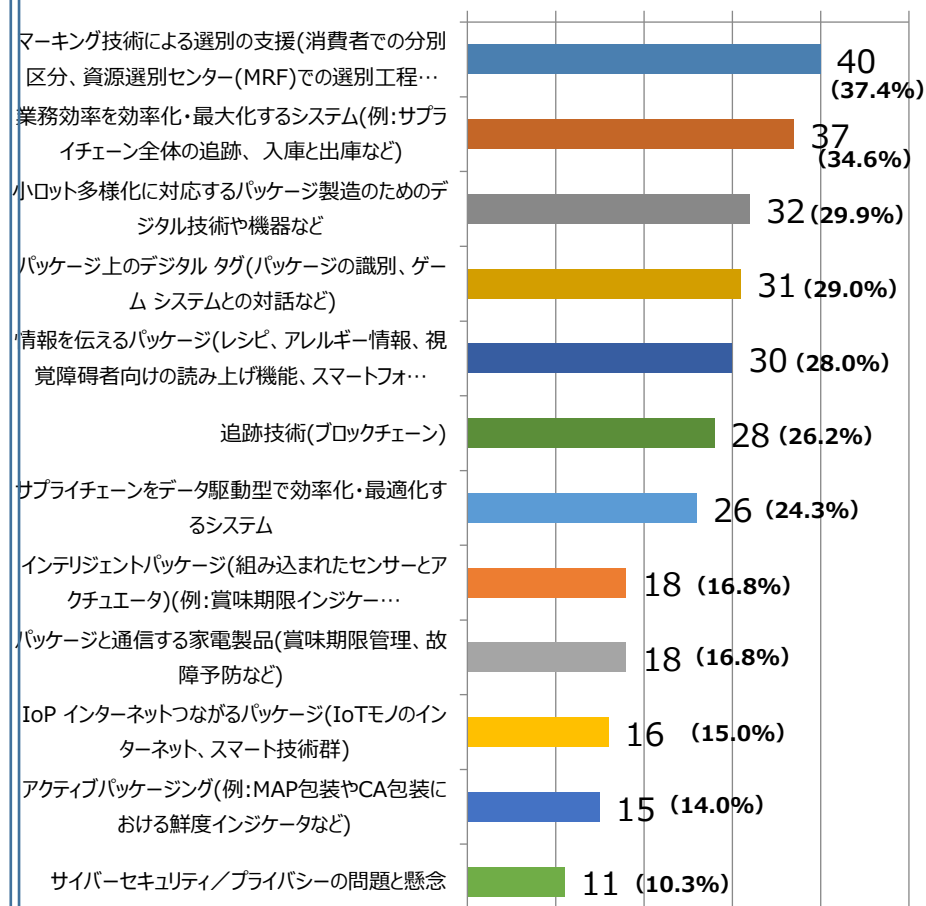
0 20 40 60



Q5: 2035年までに、パッケージを変革・変化させるデジタル技術の『トップ3』を選んでください。これには、パッケージング自身のデジタル技術、接続するシステムのデジタル技術が含まれます。

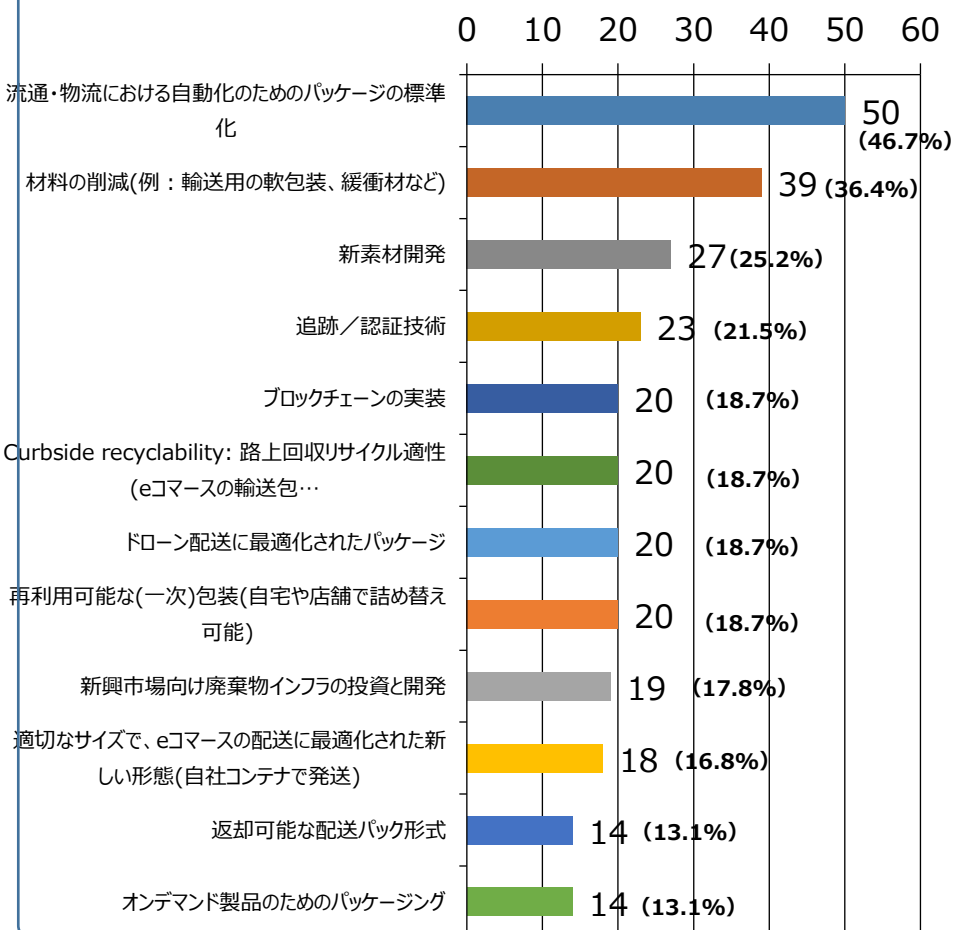
回答数

0 10 20 30 40 50



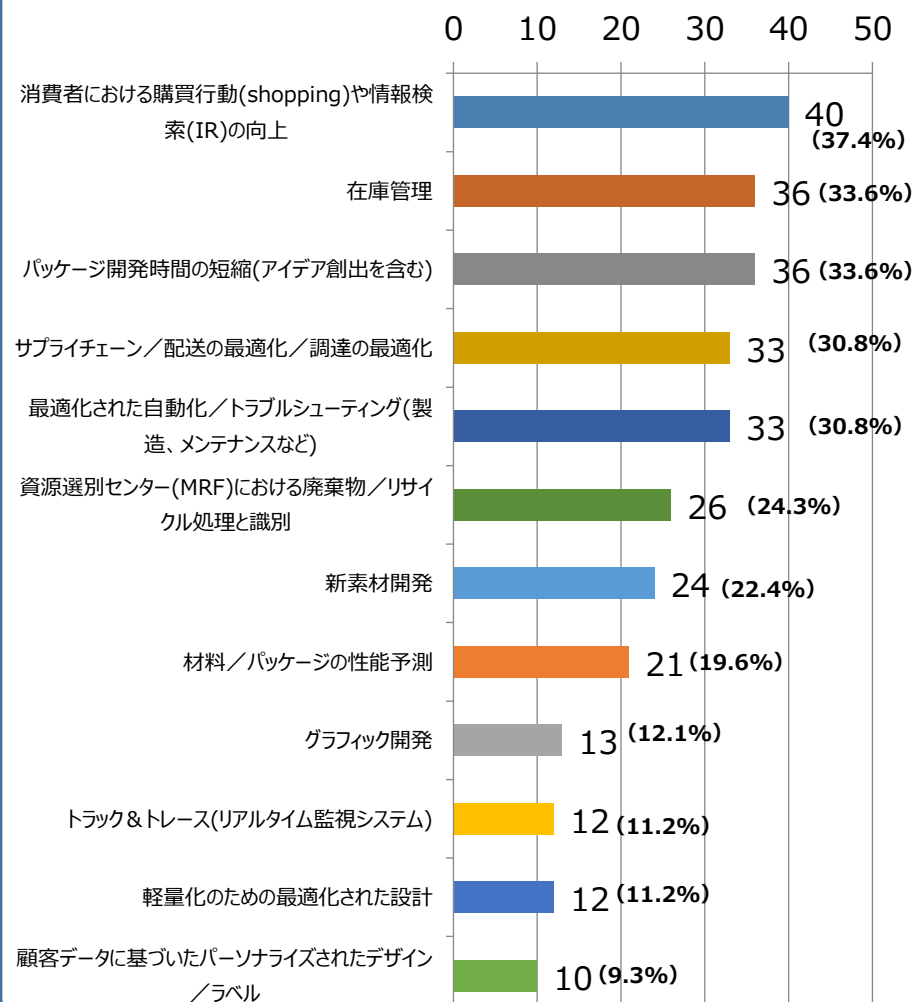
Q6:あらゆるものがeコマースによる高速・最適化・オンデマンドの世界へと移行するにつれ、包装業界もこれに対応せざるを得なくなります。2035年までに、包装業界が必ず対応すべき重要事項(変化または技術)は何でしょうか。『トップ3』を選んで下さい。

回答数

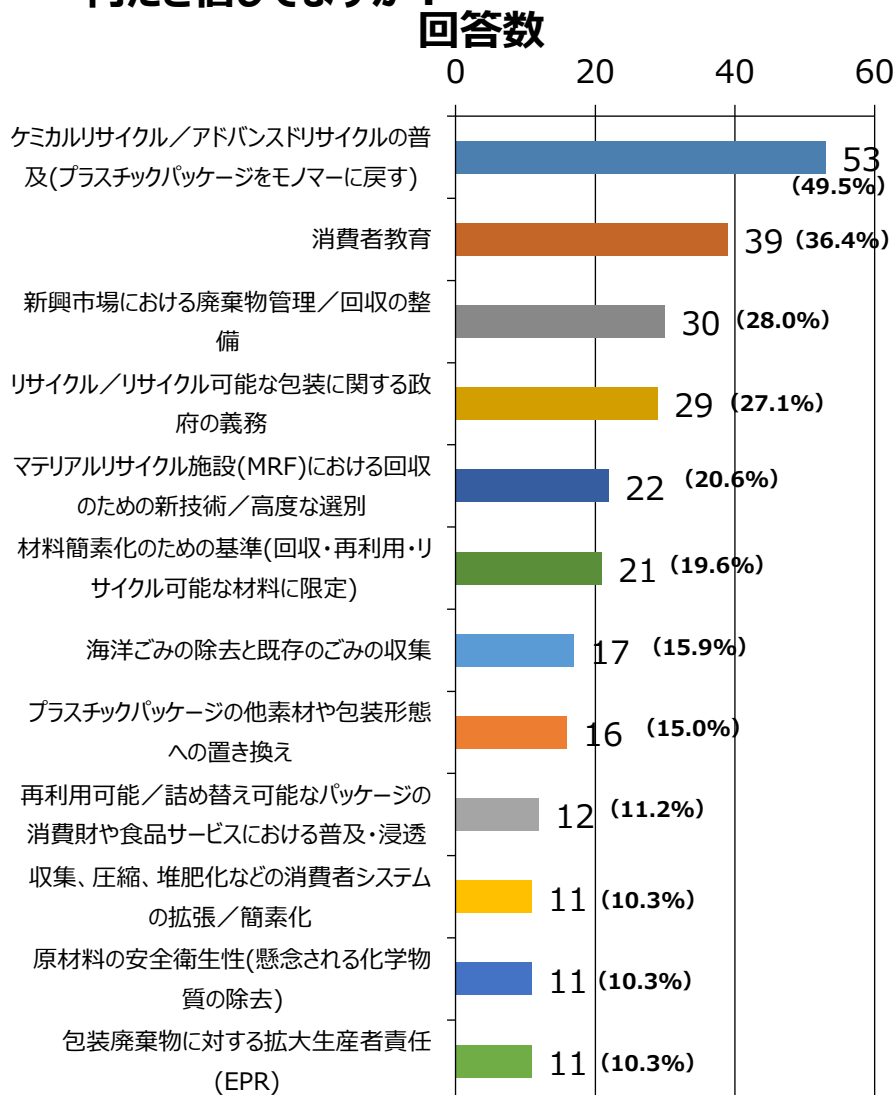


Q7:次の10年で、人工知能(生成AI、エージェント型AI、コンポジットAIなど)が、パッケージへ最も影響を与える『トップ3』を選んで下さい。

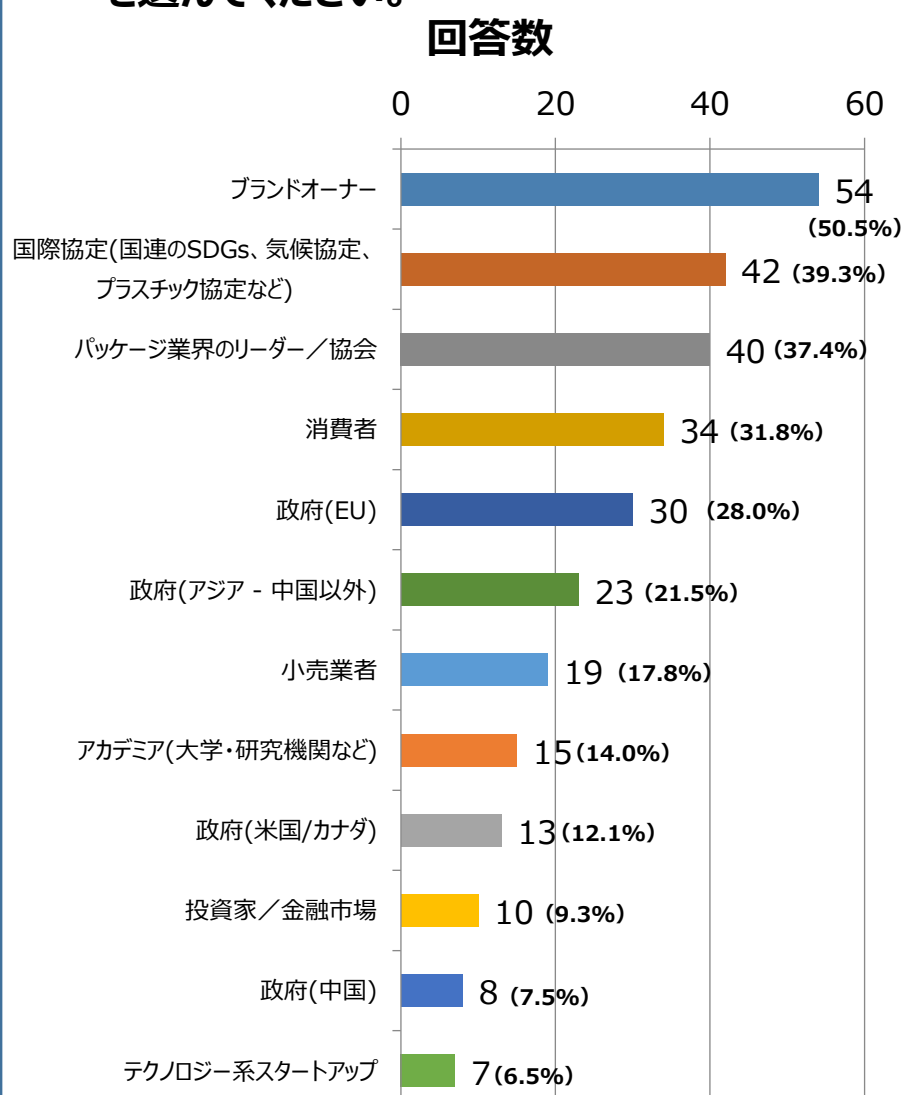
回答数



Q8:ゼロ・ウェイスト／循環型経済のビジョンを実現するために、開発すべき最も重要な『トップ3』は何だと信じていますか？



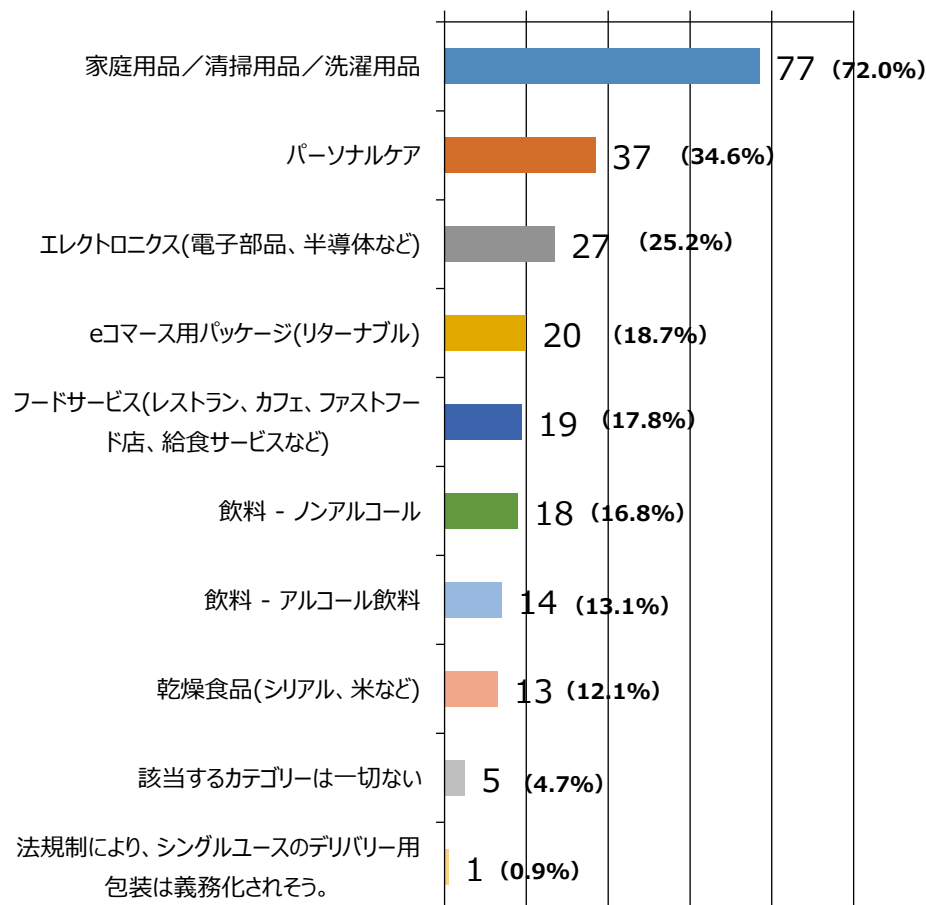
Q9:市場とパッケージ部門を新システムに移行させることをリードするのは、誰でしょうか。『最大3つ』を選んでください。



Q10:2035年までに、売上高の25%以上で再利用可能(リユース)／詰め替え可能(リフィル)な包装を使用するようになるのは『どの製品カテゴリー』でしょうか？

回答数

0 20 40 60 80 100



Q11:再利用(リユース)可能なパッケージが大きな存在感を持つためには、2035 年までに何が実現される必要がありますか？

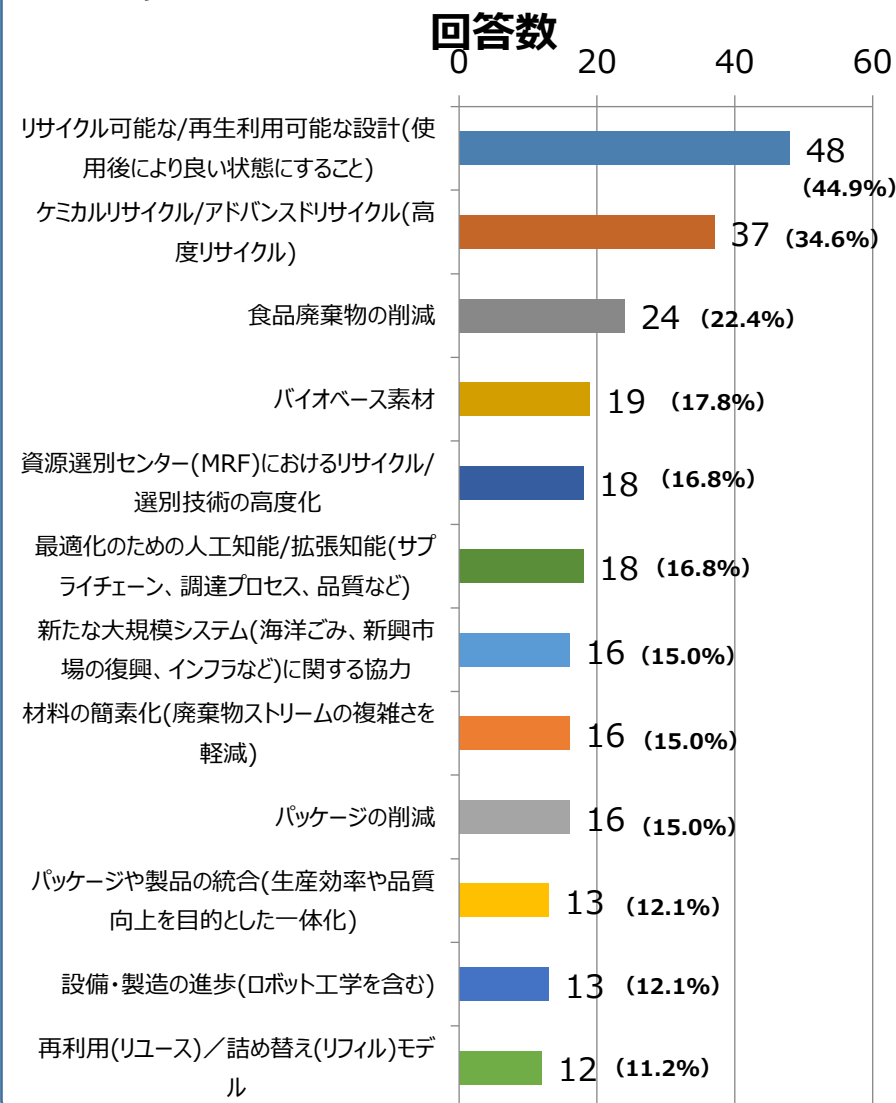
《自由記述》

23の回答者(26%)がこの質問に「回収」と回答しました。

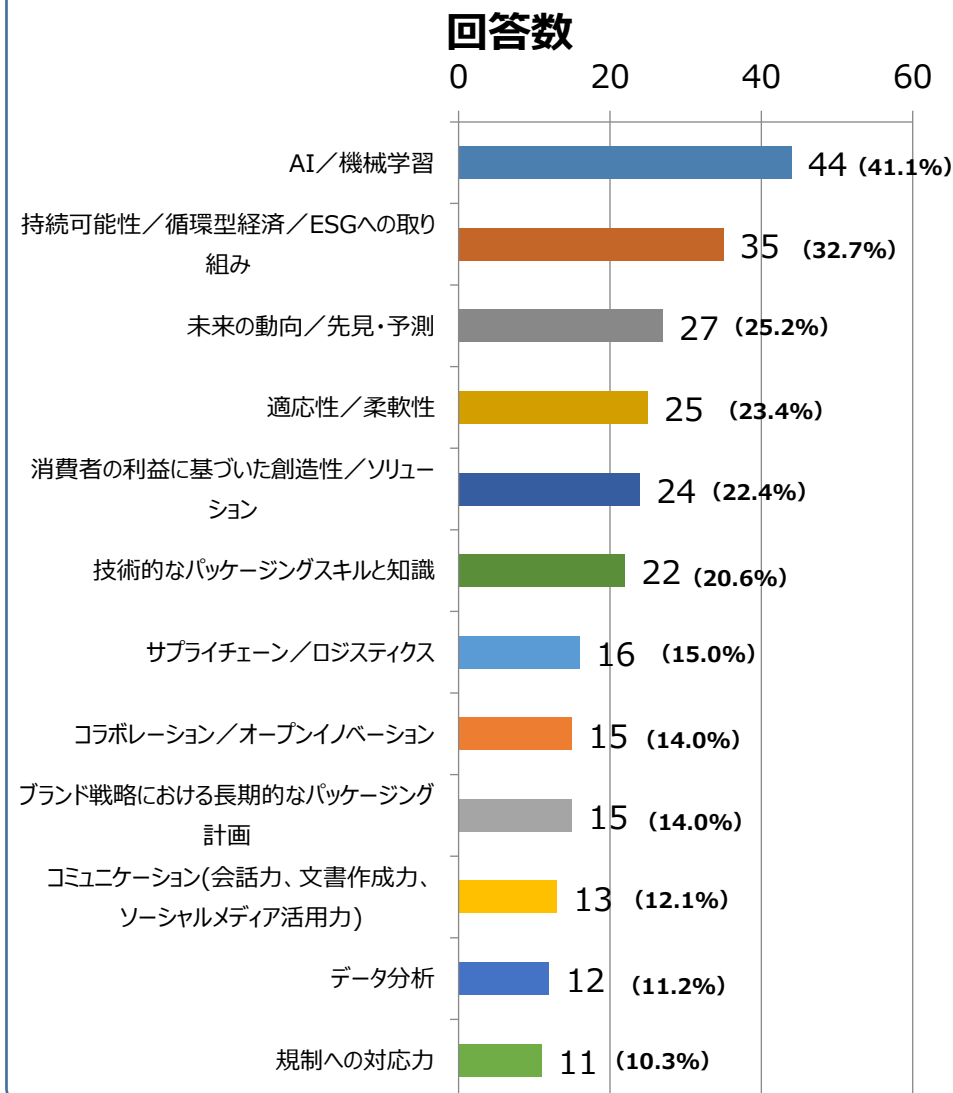


※Microsoft Forms 応答結果から複写

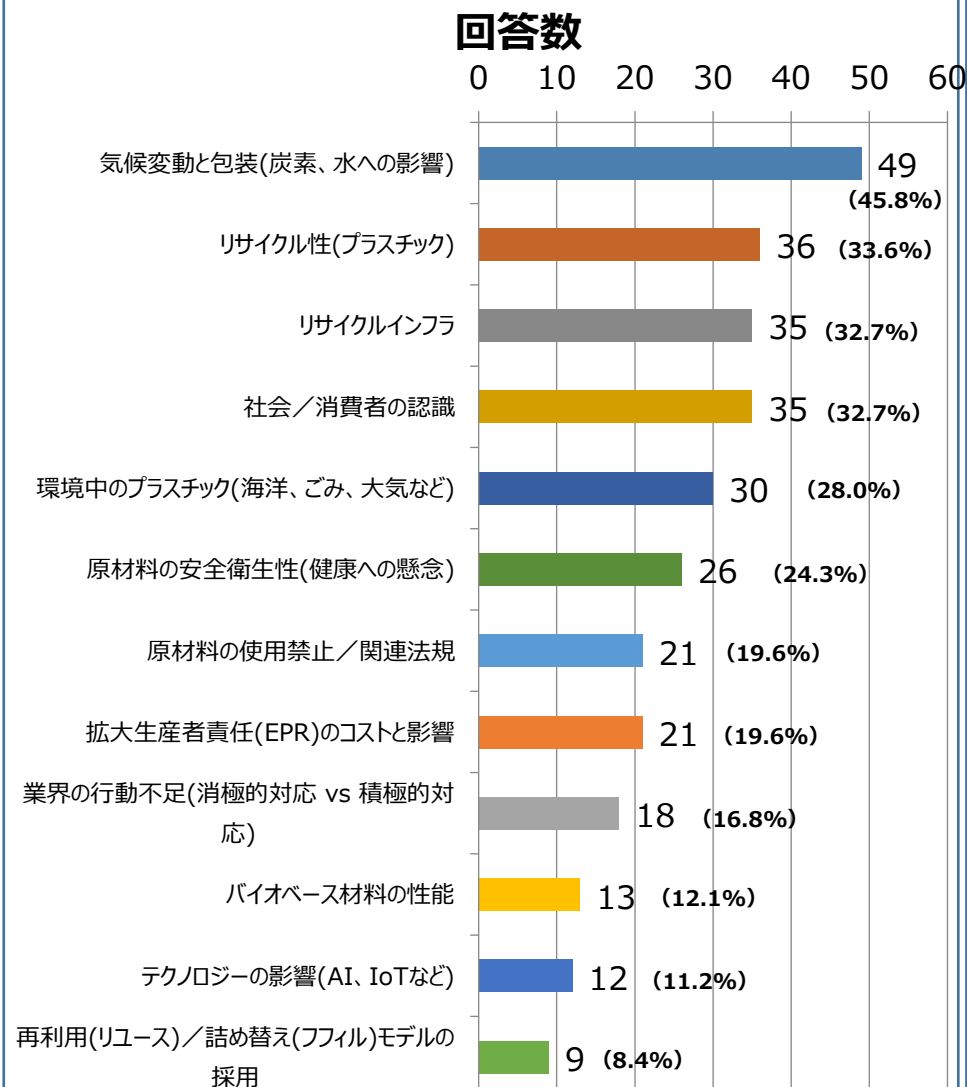
Q12:2035年までに、包装業界が付加価値を高める可能性がある分野の『トップ3』は何だと信じますか？



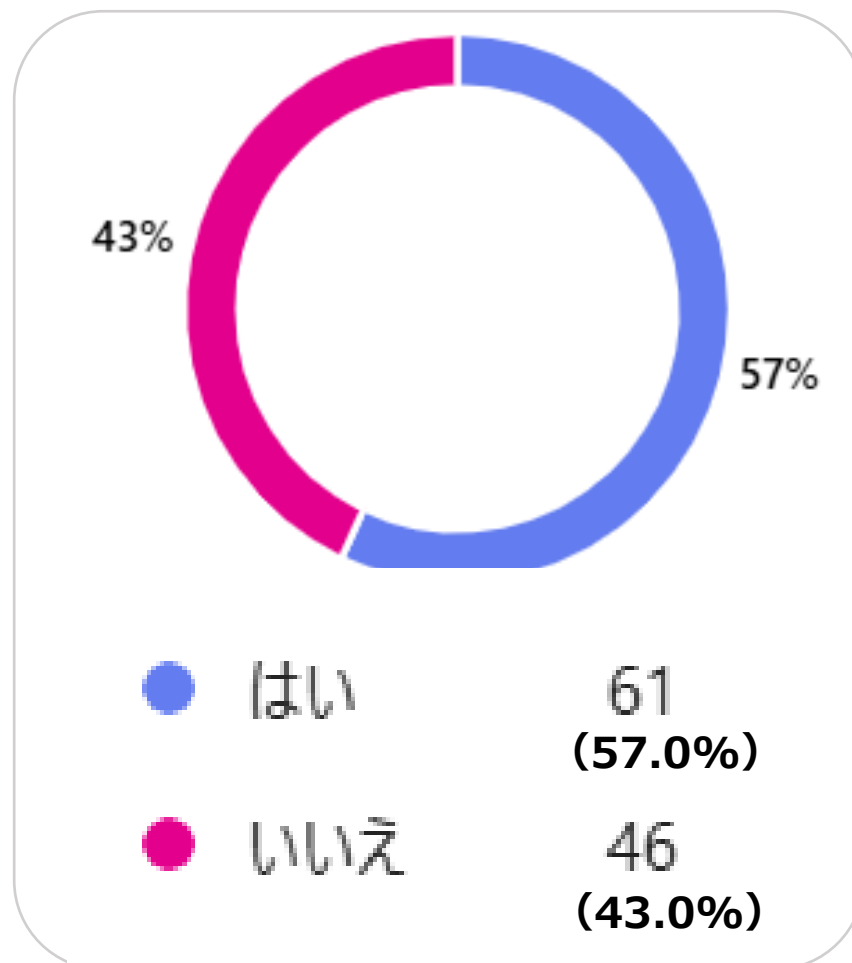
Q13:2035年のパッケージ業界を考える際、今後10年間で必要となるスキル/能力は何でしょうか。『トップ3』を選んでください。



Q14:2035年においてもなお取り組むべき課題として、パッケージ分野における主要な懸念事項は何でしょうか。『トップ3』を選んでください。



Q15:あなたが所属する組織は2035年の未来に向けて準備していますか？



※Microsoft Forms 応答結果から複写

Q16:(15の設問で)「はい」の場合、あなたが所属する組織が将来に向けて備えている主な強みと特性は何でしょうか。「いいえ」の場合、あなたが所属する組織に不足しているものは何でしょうか。

《自由記述》

16の回答者(15%)が、この質問に「開発」と回答しました。



※Microsoft Forms 応答結果から複写

「はい」回答者が挙げた所属組織の強み

強み・テーマ	件数	内容
技術開発・素材対応力	29	リサイクル技術、モノマテリアル化、新素材、代替資源、製造技術など
循環・リサイクル対応	20	資源循環、水平リサイクル、容器リサイクル、回収・再利用への取り組み
サステナビリティ・ESG／環境対応	15	サステナブル包装、CO ₂ ・Scope対応、海洋プラスチック対策、環境負荷低減
長期戦略・未来洞察	14	情報収集、シナリオプランニング、将来を見据えた方針決定
デジタル・AI・自動化対応	8	デジタル化、可視化、AI、自動化、データ活用への準備

「いいえ」回答者が挙げた所属組織の弱み

弱み・テーマ	件数	内容
技術力・開発力不足	16	技術力、開発力、製品スペック・素材対応力が不足
人材・スキル不足	14	人材、技術者、教育、マンパワーが不足
長期戦略・未来洞察不足	9	中長期目標欠如、先見性、将来予測が不足
連携・パートナーシップ不足	8	サプライチェーン連携、業界横断連携、パートナーシップが不足
リーダーシップ・変革文化不足	7	危機感、意識改革、経営姿勢、リアクティブな行動が不足

※データ集約・集計にMicrosoft Copilotを補助的に使用

Q17:2035年のパッケージの未来について、他に何かお伝えしたいことがあればお聞かせください

《自由記述》

7の回答者(12%)が、この質問に「リサイクル」と回答しました。



※Microsoft Forms
応答結果から複写

《主張別集計》

主張別分類	回答数	比率	考え方
1. 循環型移行推進派	14	26.4%	リサイクル、循環、回収、再生材、モノマテ、リユースを進めるべきという立場
2. 社会実装派	13	24.5%	消費者、国・自治体、流通、制度、インフラ、仕組みが必要という立場
3. 包装機能重視派	8	15.1%	保護性、賞味期限、食品ロス削減、品質、安全、利便性、情報提供など包装本来の価値を重視する立場
4. 省包装・パッケージレス派	6	11.3%	使用量削減、材料最小化、パッケージレス、省資源を重視する立場
5. 懐疑派・現実派	5	9.4%	10年前も10年後も大きく変わらない、現実的には難しい、包装産業単独で解決できる課題ではない、既存課題(コスト・原油)に追われるという立場
6. ポスト循環派※	2	3.8%	DAC、メタネーション、サーマルリサイクル等により、モノマテ前提が変わる可能性や、包装を超えた拡張性による成長を見る立場

《テーマ別集計》

順位	テーマ	該当回答数	回答率
1	循環型移行・リサイクル必要性	14	26.4%
2	素材革新・脱石油・バイオ	9	17.0%
3	消費者認知・教育・行動変容	7	13.2%
3	業界・企業・ブランドオーナーの役割	7	13.2%
5	包装機能・品質保持・賞味期限延長	6	11.3%
5	パッケージレス・削減・省資源	6	11.3%
5	制度・規制・政府／社会システム	6	11.3%
5	物流・サプライチェーン・インフラ	6	11.3%
9	コスト・価格・経済性	5	9.4%
10	デジタル・データ・AI活用	1	1.9%

※件数は少ないが、現在の循環型移行の前提そのものを問い直す少数意見として注目した。



Q18:2035年のパッケージについて考えたとき、頭に浮かぶ言葉は何でしょうか？

8の回答者(10%)が、この質問に「循環型」と回答しました。

リサイクル循環可能なパッケージ

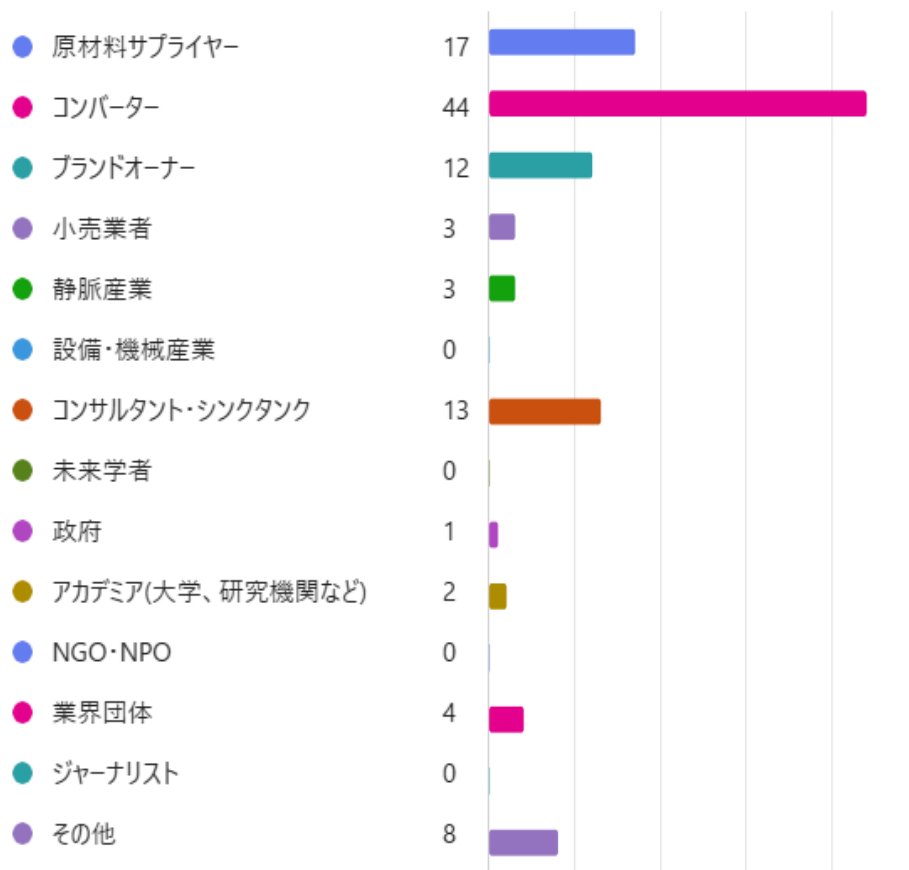


※Microsoft Forms 応答結果から複写

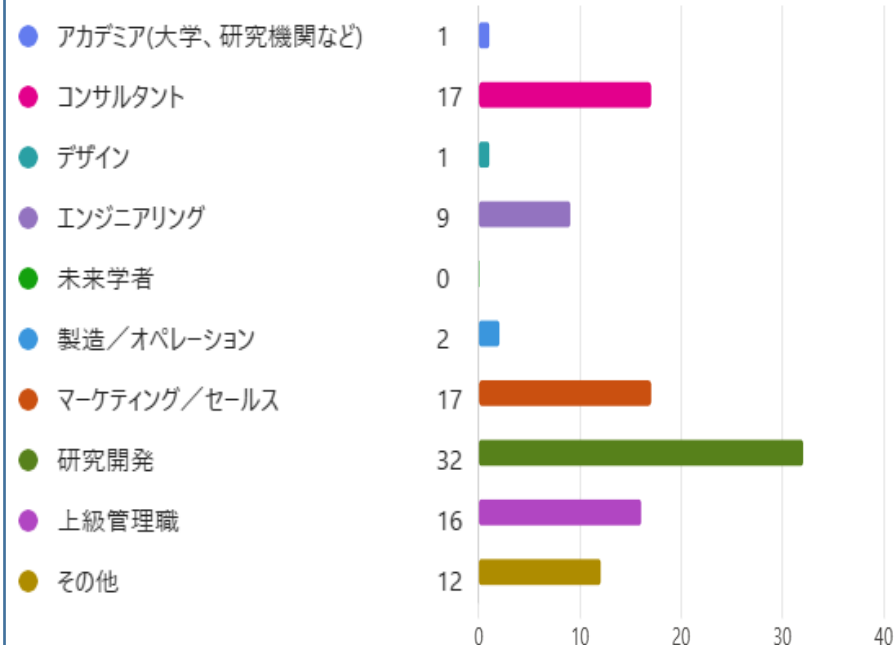
- | | |
|------------|---|
| 1位 : 30.8% | リサイクル、循環・資源循環 …(含む:回収、再利用、再生材利用、リサイクル可能な設計) |
| 2位 : 14.1% | シンプル化、減量・最小化 …(含む:簡素、軽量、減容、必要最低限、パッケージレス) |
| 3位 : 14.1% | 消費者・社会行動、価値観変化 …(含む:意識、高齢化、人材不足) |
| 4位 : 9.0% | 素材革新、脱石油・代替素材 …(含む:材料、バイオ、新技術、ハイバリア、モノマテ) |
| 5位 : 7.7% | 環境負荷低減、CO₂・脱炭素 …(含む:環境問題、海洋プラスチック、省資源、サステナブル実現) |
| 6位 : 7.7% | 機能価値・品質保持、保護 …(含む:賞味期限延長、美味しさ維持、食品ロス削減、ハイバリア) |
| 7位 : 6.4% | デジタル・AI・スマート化 …(含む:情報、予測、自動化) |
| 8位 : 5.1% | 構造変化、業界再編、協創 …(含む:調和、提案力、コスト意識、共通化、原点回帰) |
| 9位 : 3.8% | 物流・輸送効率、標準化 …(含む:規格化、統一化、通い箱) |

※1～9位データ集約・集計にMicrosoft Copilotを補助的に使用

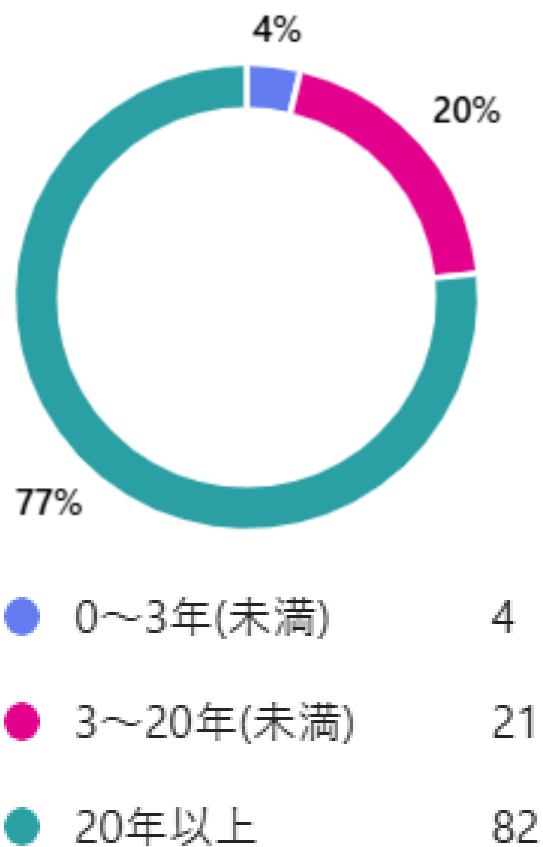
Q19:あなたの組織・会社はバリューチェーンのどこを担当していますか？



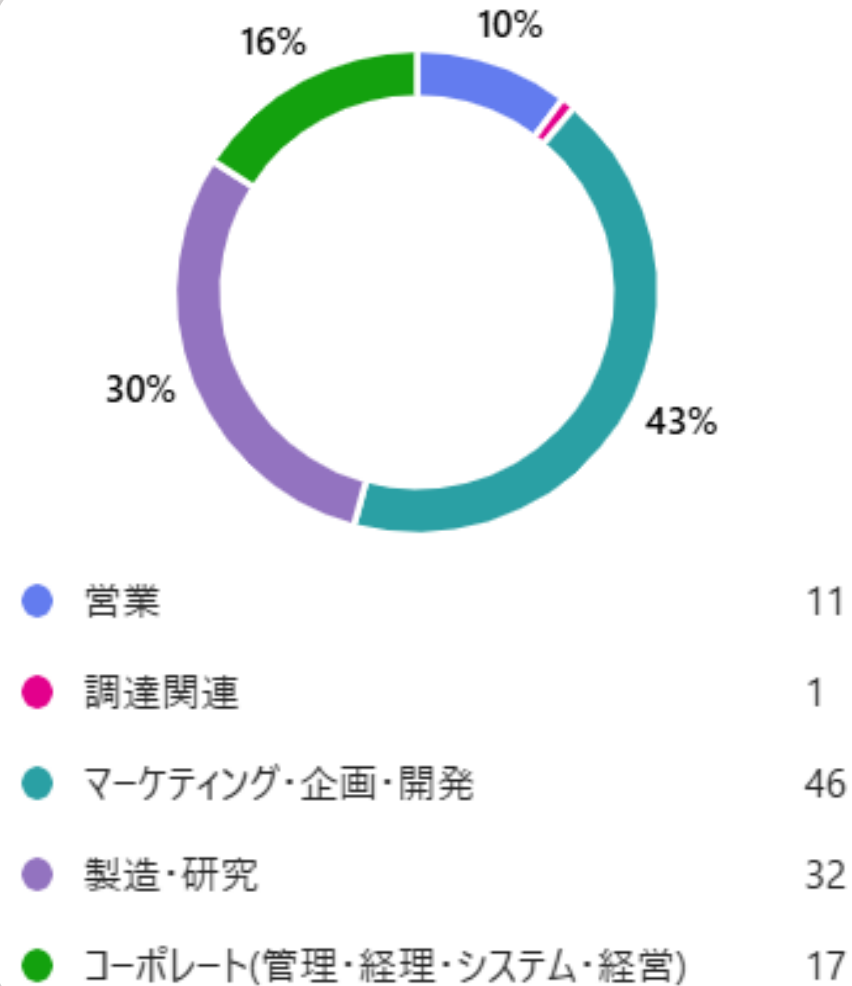
Q20:組織・会社内でのあなたの役割は何ですか？



Q21:あなたの包装産業でのキャリア期間を教えてください



Q22:あなたの担当する業務を教えてください



今後について

- 「Future of Packaging™ 2035 Thought Leader Survey」(パッケージの未来2035) 日本語版の実施時期が、中東緊張が高まった2026年3月と重なり、PTISがグローバル・アンケートを実施した2025年2月と外部環境が変わってしまいました。日本語版では、地政学や分断、原油調達などに関する回答が多く、グローバル版との直接比較は見送ることにしました。
- 一方、日本の包装専門家は、『“循環型移行”と“包装機能性や経済性”の両立』や、『“予期せぬ制御不能な要因”と“使命である安定供給”の相反による包装業界の前提の崩壊』など、多くの葛藤を抱え、グローバルとは異なる視点を持つことも浮き彫りになりました。
- 今後、世界の共通目標である「あるべき未来の姿」に向け、日本の包装業界がどのような移行経路を歩み山頂を目指すのか、次回PTISアンケートの実施時には、改めて日本語版を企画し、今回結果との比較を通じて、日本の包装産業の変化と進展を確認したいと考えます。